コープニュース CO-OP NEWS

発行所
株式会社 コープニュース
〒154-0016
東京都世田谷区弦巻4-19-14
ロアールハイツ302
電 話 03－3429－0211
FAX 03－3429－0226
購読料 年間18,000円＋税（送料込）

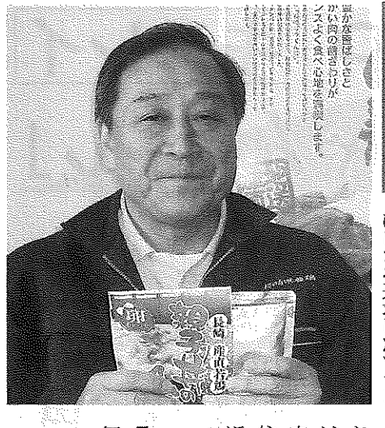
4月10日 火曜日
2018年（平成30年）
毎月10日発行
第275号

長崎県養鶏農業協同組合

代表理事組合長 深沢 晃氏

生協取り組み33年の歴史

ララに鶏卵や鶏肉、鶏肉加工品納入



長崎県養鶏農業協同組合（本部・長崎県長崎市）は、1955年（昭和30年）組合員農家が出資して設立した養鶏専門農協。同農協では、生産から流通までの一貫体制で、生協をはじめ、病院、ホテル、飲食店、地元スーパーにブランド卵・鶏肉および加工品を納入している。同協同組合のブランド『クイーン卵』『長崎ばってん鶏』の特長、生協への取り組みについて、昨年8月に代表理事組合長に就任した深沢晃氏に聞いた。

――貴農業協同組合の特長は。

深沢 当組合は、今や全国でも数少ない養鶏専門農協として、農場生産から消費サイドまで一貫した供給システムを構築。特に長崎県産品にこだわり、安全・安心とおいしさを追求したブランド鶏卵・鶏肉商品をお届けしています。

――貴組合の概要は。

深沢 創立は昭和26年とうかがっていますが、設立登記は昭和30年で、今期は第63期と、この地で長い歴史を刻んでおります。

事業規模は、相場により変動しますが、直近では約21億円で、鶏卵、鶏肉・鶏肉加工品の販売を柱に、飼料・ひな・その ほか生産資材の購買を行っております。

鶏卵の取扱量は月間250～300㌧、鶏肉は年間出荷羽数ベースで30万羽となっており、鶏卵・鶏肉製品販売の約3割は地元のララコープにお世話になっています。そのほかは、学校給食やスーパー、ホテル・病院、製菓製パン、飲食店に販売しておりますが、圧倒的に件数が多いのは、県下一円の食堂・レストラン・居酒屋で、延べ1000店舗以上に10数台の配送車を駆使してほぼ毎日納品しています。

また名物の長崎カステラ向けとしては、『組合の卵でなくては』というこだわりの職人さんやパティシエさんの要望に応える指定原料として、愛用していただいております。

組合の施設は、長崎市内に本部を置き、県内交通の要衝である諫早市に鶏卵のGPセンターと鶏肉の加工センターを有していますが、後述のとおり、国交省による河川改修工事によりGPセンターの移設が求められており、現在その新工場建設を鋭意検討中であります。

――ブランド卵の特長は。

深沢 鶏卵は現在「白・赤・桜（ピンク）」を、販売に応じたバランスで生産しておりますが、基本的な採卵鶏用の飼料設計は1本で、ララコープとの協議により使用原料を厳選した指定配合飼料を、全組合員養鶏場および直営農場で給与しています。

びわの葉を飼料に加えた「枇杷たまご」

従って全ての生産卵を『クイーン卵』と呼んでブランド化。さらに一部の赤玉指定農場においては、ベース飼料に県の特産品の枇杷（びわ）の葉を加えた『枇杷たまご』などの差別化ブランド卵も生産しています。

これら私どものブランド卵は、生協向けには『産直たまご（白・赤・桜）』と呼んでおりますが、生協の「産直認定」をいただくためには、給与飼料だけでなく、毎年、農場・GPにおける生産方式全般に関わる監査を受けており、このことこそが、私どものブランドの信頼性や品質の安定に確実に貢献していると実感し、感謝しております。

そんな中で、最近、うれしいニュースがありました。昨年末に全国組織である全鶏会議が主催された「専門研究機関における『ブランド鶏卵の味覚センサー比較調査』があり、私どもからも供試しましたところ『貴会鶏卵は、平均値と比較して、苦味が少ないため卵本来の味がしっかりと味わえ、かつ味の濃さとうまみが強いことが特徴的で満足感の高い味わいといえます。

また、後口もすっきりとしていて、しつこくありません』という理想的な評価結果をいただきました〈報告・（株）味香り戦略研究所〉。

この結果にも、原料を厳選した指定配合飼料（飼料米）や生協の産直生産方式、わが長崎の気候風土の影響が表れているものと得心しました。

――『長崎ばってん鶏』の特長は。

深沢 鶏卵と同様に当組合の鶏肉（ブロイラー）生産は、全ての組合員生産農家において同一飼料体系・生産方式を採用しており、ブランド名は『長崎ばってん鶏』ですが、生協向けには『長崎 産直若鶏』と呼んでいます。

その特長は、効率一辺倒のブロイラー生産とは一線を画し、環境抜群の開放鶏舎において坪羽数を少なくし、伸び伸びと飼育し、飼料は餌付け前期から即、無薬の仕上げ飼料に切り替える長期無薬飼育体系で、鶏へのストレス緩和を考慮して5種類のハーブを配合しています。

もちろん生協の産直認定をいただいており、全農場ごとオールイン・オールアウト方式を採用しています。

しかし何よりも生産者の皆さんのキメ細かい管理によって生産成績は年々向上、PS（生産指数）が400を超えるロットもしばしば見受けられるようになりました。

ララに「産直の若鶏親子丼の具」提案中

――生協との取り組みは。

深沢 1985年にコープさがからスタートし、現在はコープ九州事業連合を経由して地元長崎のララコープに鶏卵と鶏肉および鶏肉加工品を納入しています。

前述のとおり、当組合の売り上げでは3割に達する生協がトップシェアであり、今日まで33年間という長い取引を継続させていただいておりますが、まさに生協に磨かれ、ともに成長させていただいた歴史だと考えております。

――「中期3カ年計画」の概要は。

深沢 昨年7月、これまで四半世紀の長きにわたって組合を育てリードされてきた有田ツタ組合長を亡くしました。

大きな喪失感と周囲の不安視の中、残された役員や職員と協議を重ね、私は9月開催の通常総会において、新年度（平成29年7月1日～平成30年6月30日）の事業計画を、この期に続く「中期3カ年計画」としてご提案し、組合員の皆さまに了承されました。

さらに厳しさを増す経営環境の中、計画達成に向けてさまざまな取り組みを開始していますが、その基本的な対応構想は以下のとおりです。

1．養鶏農協の強みである「グループ力」の結集と発揮。

農協改革が声高に叫ばれ、課題が指摘されておりますが、われわれは生産から未端消費まで全てに関わる強みを生かし「グループ力」を発揮して、社会に求められる組合を実現します。

2．オンリー・ワンの差別化ブランド構築と加工商品開発による販路拡大。

コスト競争市場からは一線を画し、県在来種『対馬地鶏』を改良した新たな長崎県を代表する鶏卵・鶏肉ブランドの創出と、食味計などを用いた裏付けデータの整備、新たな提携先によるレトルト新商品群の開発販売。

3．GP・加工センターの移設統合と配送機能などの集約。

国交省の半造川護岸工事によるGPセンター土地買収計画を受け入れ、工場移設先として諫早市産業団地への進出を正式決定しました。

ここは高速のインターに近く長崎県のへそというべき物流拠点としては最高の立地にあり、面積も十分であることから、現在3カ所に分かれている組合施設を全て統合し、受発注・製造・配送機能、そして日々の運営から経営全般の効率化を目指したいと考えています。

――具体的な今後の事業内容は。

深沢 長崎県波佐見町の「つくも食品」と提携、まずは既存の「長崎ばってん鶏の親子丼・鶏めしの素」から新レトルト商品化しますが、既にララコープへは「産直若鶏の親子丼の具」として試作品を提案し、ご試食していただきました。

今年、合併20周年を迎えられますララコープですが『産直たまご』とともに、記念メニューとして採用いただけましたら幸いです。

――最後に。

深沢 前職の定年退職後に赴いた長崎ですが、1年半が過ぎ、さまざまな出来事と、たくさんの出会いの中で、巡り合わせと申しましょうか、後ろから肩を押される感じで充実した日々を送らせていただいております。

少しでも皆さまのお役に立てますよう、感謝の気持ちで頑張ってまいります。

会社概要 本社・長崎市大橋町3－26▽設立・1955年8月25日（現在第63期）▽代表理事組合長・深沢晃▽年商・21億円▽電話番号・095－848－7677